

今年度の教師力向上研修会は、テーマ「子供主体の活動を支える」とし、小学2年生活科「わたしは小さなおひゃくしょうさん」の実践を基に、全4回シリーズで開催します。

第1回は井波小学校にて「単元構想と単元との出会い」について研修しました。

以下に、研修内容をまとめましたので、ぜひご参考にしてください。2回目以降の参加もお待ちしています。



1 はじめに

- ・授業は3つの立場で考えることが重要である。
子供、先生、社会・保護者
- ・疑問や質問をたくさんもつことが大切である。
- ・生活科は、子供の生活・経験そのものを学びにして、生きる力を育てる教科である。



2 導入（単元との出会い）

(1) 子供に野菜を見せる。

T 「何をと思う？」

A 児 「ぼく分かった。」

講師の先生からの問いについて、意見交換、全体でのシェアを行いました。

Q. A児は何を考えたか？

ポイント

- ・子供に考えさせる。
- ・興味・期待を引き出す。盛り上がって騒がしくなっても教師はしばらく待つ。

(2) 「わたしは小さなおひゃくしょうさん」を提示する。

B 児 「イエーイ」と盛り上がる子

C 児 反応しない子

Q. どちらの子をはじめに当てますか？

ポイント

- ・どちらもあり。この授業では、『イエーイ』という子から話すことで、他の子の困り感を減らすことができた。

D 児 「粘土でなすびを作る」

※教師が意図していない発言が出た。

Q. D児に対してどう対応したか。

ポイント

- ・教師が「野菜をつくる」と言ったために子供がそう考えてしまった。
教師が話す言葉は重要、教師の一言が学びの方向を決める。



(3) 心配なことがたくさん出てくる。

「育て方が分らん」

Q. 子供たちに対してどうするか？

ポイント ・一つ一つ説明するのではなく、「分からないのは当たり前」「まだ勉強していない」と言い、これから学ぶことを伝える。

3 ワークシートや講義の中で出た参加した先生方からの質問

Q. なぜ、それらの野菜を選んだのか。

A. 地域の店で苗が売っていたから。その地域で採れる野菜を扱っているはずだから。

Q. 野菜の種類、種か苗か、場所等、自由にしたのはどうしてか。

A. この授業のねらいは、「自分の責任で自分が育てたいものを育てる」だから、自由度を高くした。ただし、事前に苗の店に行くなど、**準備を十分にした**。

Q. 「わたしは小さなおひゃくしょうさん」としたのはどうしてか。

A. 野菜を育てる人という意味を表したかった。

Q. 野菜を自由に選んでもよいので10個育てるといった子供もいたのではないか。

A. いた。子供によってかかる金額が変わるので、保護者会を開き授業に関する説明をした。用意する苗や、枯れたときの対応等、**予測される心配事を事前に話し、協力をお願いした**。

Q. 約束を「じぶんのはたけはじぶんでお世話する！」としたのはどうしてか。

A. 1年生の終わりごろに、人のせいにするような雰囲気が感じられたので、**子供の実態を踏まえて決めた**。

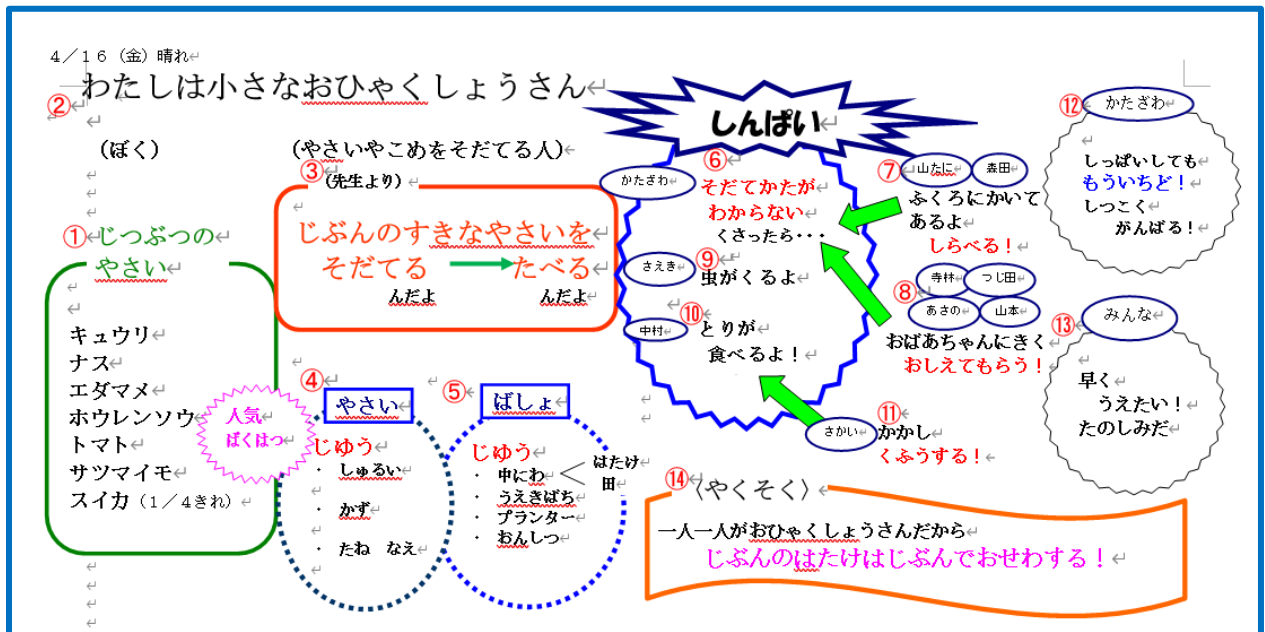
Q. みんなで収穫を一緒に喜ぶようなことも考えられるが、どう思われるか。

A. 正解は1つではない。授業のタイプとして2つある。**その授業で教師が何をねらうかで決まる**。

☆2つの授業のタイプ

人生型（今回の授業）	会社型（例：野菜パーティー）
自分で選ぶ	同じ目標に向けて取り組む
結果がバラバラ	同じ成果を目指す
自分の責任	協力・分担
自分らしい学び	組織的な学び

配付されたワークシート



研修を振り返って

- ・ 幼稚園や保育園、他市の先生方も加わり、54 名が参加されました。研修では、ベテランと若手で意見交換する機会もあり、深い学びにつながったことと思います。
- ・ 参加者の方々の振り返りから、子供に身に付けたい力を明確にし、教師はねらいをぶらさず授業することの大切さを感じているようでした。そして、子供の視点に立った授業を目指したいと思う先生方が多かったです。
- ・ 講師の先生の「教科を材として教育していくものである」という言葉が印象的でした。授業とは、知識を教えることだけでなく、子供が生き方を学ぶ場であるという思いが伝わってきました。
- ・ 次回は、「主体性を育む先生の働き」です。多くの先生方に参加していただき、よき学びの機会にしましょう。

